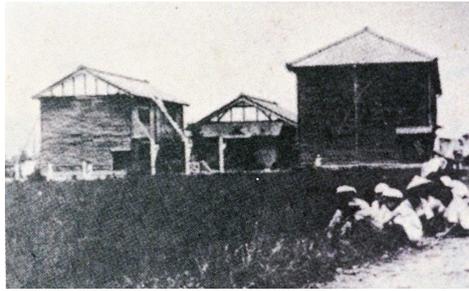


まなびや

苦難を乗り越え、理想を掲げて発足 新制中学校のはじまり 希望と混乱の中で、教育の機会均等とその拡大

戦後の学制改革は、中等教育の一元化と全国民への開放であり、教育の機会均等の理念により複線型学校制度を見直し、単線型学校制度を実現



福井市第四中学校の校舎全景 (昭和22年：現在の進明中学校)

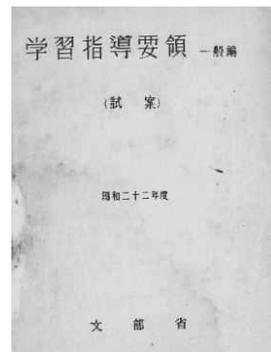
しました。小学校に続く三年制の義務教育(6・3制)構想は戦前期からありましたが、一九四七(昭和22)年に発足しました。

旧制度の基盤もなく急に設置が決まった新制中学校は、十分な準備期間がないままスタートしたので、施設・教員・教科書等の確保をめぐって混乱しました。当時は単村で

下宇坂中学校

手作り木製校名板(昭和22年：現福井市下宇坂小学校蔵)

の学校設置が財政的に困難で複数の町村による組合立の学校も多くありました。



▼学習指導要領 一般編 (試案) 序論 (昭和22年3月)

『いまわが国の教育はこれまでとちがった方向にむかって進んでいる。(中略)目標に達するためには、その骨組みに従いながら、その地域の社会の特性や、学校の実情、児童の特性に応じて、それらの事情にぴたりとした内容を考え、その方法を工夫してこそよくいく……』

示された学習指導要領には、教師から知識を一方的に教え込んでいくのではなく、生徒の学習活動を工夫することが求められています。次のように新しい教科も生まれました。

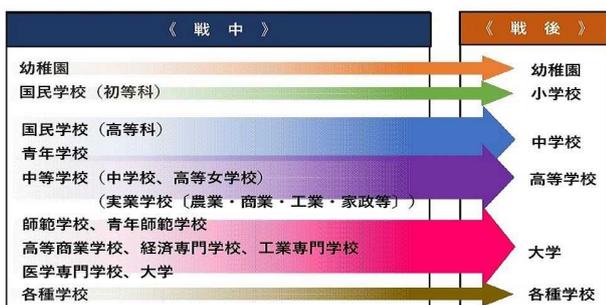
◆社会科・・・それまでの修身、公民、地理、歴史を融合して一体として学ぶために設けられた教科。

◆自由研究・・・生徒がより発展させたい学習を行う時間。これは後に「特別教育活動」(学級会、生徒会等)に変更。
◆選択教科・・・外国語、職業(家庭科等)、自由研究から生徒または学校が選択。複数組み合わせ可能。

1947(昭和22)年発足当時の福井県内中学校名一覧(179校)

福井市(5校)	福井第一、福井第二、福井第三、福井第四、福井第五	大野郡(31校)	石徹白、打波、下打波、勝原、阪谷、富田、平泉寺、勝山、村岡、北谷、野向、荒土、北郷、鹿谷、三堂
武生市(2校)	武生第一、武生第二	今立郡(17校)	惜陰、北日野、味真野、北新庄、国高、新横江、神明、中河、片上、北中山、南中山、花壇、岡本、上池田、下池田、服間、河和田
敦賀市(1校)	敦賀	丹生郡(22校)	朝日、立待、吉川、豊、吉野、大虫、宮崎、白山、城崎、四ヶ浦、越廬、下岬、国見、殿下、織田、萩野、常盤、糸生、志津、安曇、三方、天津
足羽郡(10校)	酒生、上宇坂、下宇坂、一乗谷、東郷、上文殊、下文殊、麻生津、六条、社	南条郡(10校)	神山、王子保、日野、湯尾、宅良、今庄、鹿森、堺、河野、坂口
吉田郡(13校)	西藤島、河合、森田、中藤島、岡保、東藤島、松岡、吉野、御陵、志比谷、下志比、浄法寺、上志比	敦賀郡(5校)	東浦、東郷、中郷、愛発、栗野
坂井郡(31校)	三国、雄島、加戸、木部、芦原、吉崎、北湖、細呂木、伊井、金津、大開、本庄、坪江、剣岳、東十郷、長畝、丸岡、竹田、高棟、鳴鹿、磯部、春江、大石、兵庫、新保、浜四郷、鷺、大安寺、本郷、養、鷹巣	三方郡(7校)	十村、八村、西田、南西郷、北西郷、耳、山東
大野郡(31校)	有終、小山、乾側、下庄、羽生、芦見、上味見、下味見、上庄、中島、奥原、秋生、日進、大和、朝日、大納	遠敷郡(16校)	小浜、内外海、鳥羽、瓜生、熊川、三宅、松永、野木、宮川、国富、遠敷、今富、口名田、中名田、知三、奥名田
		大飯郡(9校)	高浜、内浦、青海、青郷、和田、佐分利、本郷、加斗、大島

学校制度の改革に伴う学校変遷



福井県立藤島高等学校

【県内一例】福井藩校明道館
↓明新館↓福井県尋常中学校
↓福井県立福井中学校↓《新制・統合》福井第一高等学校↓
一九四九(昭和24)年《統合》

旧制中学校とは

旧制中学校は中学校令により定められ、一八九九(明治32)年の改正により設立が進みました。戦前の中学校は、男子の5年制(後に4年制)で義務教育ではなかったもので、小学校(国民学校)卒業し入学試験によって入学。女子は高等女学校で学びました。